

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

清水谷高校のミッション

本校は1900年創立の歴史と伝統を受け継ぎ、「愛と恕」の精神の下、個性と多様性を尊び、共生社会で使命を果して幸せな人生を歩むための教育を行う。

めざす学校

生徒が本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自他の個性を尊び、将来果たすべき使命を意識して、幸せな人生を歩めるように

1. かけがえのない存在として自分の能力を信じて、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗して学び、達成で成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養とを磨く学校
3. 毎日を充実させて、何事も自ら考え判断し、仲間と協働して、自ら創造と変化を引き起こすことができる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。(「」内は学校教育自己診断のアンケート設問事項。以下全て同様。)

ア 授業づくりチームを核に、授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。

※ 生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率をR8年度には85%以上にする(R3=78%, R4=78%, R5=74%)。

※ 生徒の授業アンケート全教員平均をR8年度まで3.40以上を維持する(R3 1回目①3.46, 2回目②3.45, R4①3.48, ②3.47, R5①3.47, ②3.47)。

イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。

※ 生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率をR8年度までに85%以上にする(R3=76%, R4=74%, R5=84%)。

※ 生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率をR8年度までに80%以上にする(R3=71%, R4=59%, R5=79%)。

ウ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムの確認・見直しや、学年進行による新観点別授業評価を全教員が安定して実施できるようにする。

※ 教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」をR8年度90%以上にする(R3=71%, R4=83%, R5=86%)。

(2) ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるグローバル社会に対応し、活躍できる人材を育成する。

ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校内外での英語使用機会を増加させる。

※ R5年度に復活した本校主催の海外語学研修や海外の学校等を本校に招いて交流する機会をR8年度までに年1回以上行うことを定着させる。(R5=3回)

2 非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現

(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。

ア 人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。

※ 生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率をR8年度まで90%以上で維持する(R3=97%, R4=92%, R5=92%)。

イ いじめの防止の徹底をする。

※ 生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率をR8年度まで90%以上で維持する(R3=95%, R4=93%, R5=93%)。

(2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持する。

ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持する。

※ 生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する(R3=96%, R4=96%, R5=97%)。

※ 生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する(R3=93%, R4=91%, R5=90%)。

※ 生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する(R3=87%, R4=94%, R5=89%)。

※ 生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率をR8年度までに90%以上にする(R3=86%, R4=85%, R5=83%)。

3 キャリア教育の充実と希望の進路の実現

(1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。

ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや、社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。

※ 生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率をR8年度まで90%以上を維持する(R3=90%, R4=91%, R5=91%)。

(2) 生徒の希望の進路を実現させる。

ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかり学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。

※ R8年度までに国公立大学の進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率40%以上をめざす(R3=30.9%, R4=29.2%, R5=33.8%)。

※ R8年度に国公立大学へ合格者数を卒業生の20%、60名以上にする(R3=14%, 38名, R4=14%, 40名, R5=18%, 49名)。

4 多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり

(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。

ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。

※ R8年度までに社会人による講演や大学等にいる学生の先輩講話、大学生や外国人留学生とのインターンシップ交流等の実施を定着させる。

※ 生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率をR8年度までに85%以上に定着させる(R3=60%, R4=56%, R5=88%)。

(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。

ア 特色や魅力のある教育を行うとともに、効果的で積極的な情報発信や、学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。

※ R8年度までに本校の特色となる学年縦断行事の考案、実施や、地元の中学校との連携強化、ホームページ改訂や新たな広報で積極的な情報発信を行う。

※ R6の募集人員1学級増加後においても、中学生の本校志願倍率をR8年度まで1.1倍以上で定着させる(R4=1.02, R5=1.28, R6=1.21)。

5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進

(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。

ア 担任団、学年間の連携強化を図るとともに、校内外の教職員研修を通じて教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導等をできる資質を養う。

※ 教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率をR8年度までに90%以上にする(R3=71%, R4=83%, R5=83%)。

※ 生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率をR8年度までに85%以上にする(R3=81%, R4=77%, R5=78%)。

(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。

ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。

※ 教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数をR8年度までにR5年度比で10%減らす(R3 29.5時間, R4 33.5時間, R5 27.5時間/4~12月平均)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R5年度値〕	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	<p>(1) 新学習指導要領の確実な実施と授業改善 ア 授業づくりチームを核とした授業改善 イ 1人1台端末やICTを活用した授業推進と生徒の学力の向上 ウ 新カリキュラムの確認・見直し、新観点別授業評価の安定実施</p> <p>(2) グローバル社会に対応し、活躍できる人材の育成 ア 校外での英語使用機会の増加</p>	<p>(1) 新学習指導要領の確実な実施と確かな学力の育成のために授業改善を行う。 ア 授業づくりチームを核に授業見学週間や研究授業、授業アンケートを活用して授業改善に組織的に取り組む。授業見学週間では指定された研究授業1つを含む2つ以上の授業を見学し、研究協議に臨み、改善を図る。 イ 1人1台端末やICTを活用した授業を推進し、反転授業など新たな授業形態も研究して主体的・対話的で深い学びの実現を進め生徒の学力の向上を図る。1人1台端末やICTの活用方法について、研究協議等で教員間の情報交換の機会を設ける。 ウ 新学習指導要領を踏まえた新カリキュラムの確認・見直しや、学年進行による新観点別評価を全教員が安定して実施できるようにする。新学習指導要領や新観点別評価について、研究協議等で教員間の情報交換の機会を設ける。</p> <p>(2) ウィズコロナ、アフターコロナ時代におけるグローバル社会に対応し、活躍できる人材の育成 ア 多様化・国際化する社会の中で、国際共通語としての英語コミュニケーション力を生徒に習得させるように、校外での英語使用機会を増加させる。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校は学ぶ意欲を引き出す授業をしている」の肯定率を80%以上にする[74%]。 ・生徒の授業アンケート全教員平均を3.40以上を維持する[3.47]。 イ・生徒の「清水谷高校はICT機器を効果的に活用している」の肯定率を85%以上にする[84%]。 ・生徒の「清水谷高校は1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率を80%以上にする[79%]。 ウ・教員の「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」の肯定率を88%以上にする[86%]。 (2) ア・R5年度に3年ぶりに復活した本校主催の海外語学研修や海外の学校等を本校に招いて交流する機会をR8年度までに年1回以上行うことを定着させる。 (R5=3回)</p>	
2 非認知能力を育成する教育機会の充実と希望の進路の実現	<p>(1) 多様性を認め合い共生していく意識の醸成 ア 人権・多様性の尊重意識の醸成や情報モラル等に関する知識の向上 イ いじめ防止の徹底</p> <p>(2) 非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持 ア 非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持</p>	<p>(1) 人種、民族、宗教、国や性の違い、障がいの有無などにかかわらず、多様性を認め合い共生していくための意識を醸成する。 ア 人権・多様性を尊重する意識の醸成や、情報モラル、メディアリテラシーに関する知識の向上を図る。 イ いじめの防止の徹底をする。</p> <p>(2) 豊かな心や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動の仕組み、環境を維持する。 ア バランスのとれた心身の成長や、社会性、自主性・自立性、やり抜く力などの非認知能力を育てる部活動や自治会活動ができる仕組み、環境を維持する。校則の見直しについて、生徒の意見を反映するような仕組みや活動を自治会とともに検討し、進めて行く。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校は命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率を90%以上で維持する[92%]。 イ・生徒の「いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率を90%以上で維持する[93%]。 (2) ア・生徒の「清水谷高校は部活動が活発に行われている」肯定率90%以上を維持する[97%]。 ・生徒の「学習と部活動の両立を大切にしている」肯定率90%以上を維持する[90%]。 ・生徒の「清水谷高校は自治会活動が活発に行われている」の肯定率を90%以上にする[89%]。 ・生徒の「清水谷高校は生徒の自主性を重んじている」の肯定率を90%以上にする[83%]。</p>	

<p>3 キャリア教育の充実と希望の進路の実現</p>	<p>(1) 20年後のその先を見通したキャリア教育の充実 ア 外部講師の講演等によるキャリア教育の充実</p> <p>(2) 希望の進路の実現</p>	<p>(1) 卒業後のみならず、10年後、20年後のその先を見通したキャリア教育の充実を図る。 ア 生徒に、大学進学等のその先を見通したキャリアや社会での役割・使命を意識させる外部講師の講演などを行い、キャリア教育を充実させる。</p> <p>(2) 生徒の希望の進路を実現させる。 ア 生徒が、入学から卒業まで全教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるように、進路指導の充実をはかる。</p>	<p>(1) ア・生徒の「清水谷高校では将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 90%以上を維持する[91%]。</p> <p>(2) ア・国公立大学へ進学を希望(3年次4月時点)した生徒の現役合格率 35%以上をめざす[34%]。 ・国公立大学へ合格者数を卒業生の18%、50名以上にする[18%, 49名]。</p>	
<p>4 多様な主体との連携や協働の充実と府立学校の魅力づくり</p>	<p>(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実 ア 地域・大学・企業、同窓会などの連携を模索し、学力の三要素を磨く</p> <p>(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化 ア 特色ある教育と効果的で積極的な情報発信で募集力強化再建</p>	<p>(1) 地域・大学・企業、同窓会等の連携による探究活動の充実をめざす。 ア 総合的な探究の時間等で地域・大学・企業、同窓会などとの連携を模索し、生徒が答えのない問題に取り組み学力の三要素を磨く。</p> <p>(2) 府立学校の魅力づくりの追求と効果的な情報発信による募集力の強化を行う。 ア 他と異なる特色や魅力のある教育を行うとともに、広報媒体の見直しや、効果的で積極的な情報発信で募集力を強化する。 ・学校説明会の開催時期と実施方法、実施内容の見直しを行い、志願者増加に繋げる。</p>	<p>(1) ア・社会人等による講演や大学等に在籍する学生の先輩講話、大学生や外国人留学生とのインターンシップ交流等の実施を定着させる。 [3回] ・生徒の「清水谷高校は学校外の方たちと交流する機会を設けている」の肯定率を85%以上に定着させる[88%]。</p> <p>(2) ア・特色となる学年縦断行事の考案、実施、改編や、地元の企業、団体、中学校等との連携強化策を行う。 ・ホームページやブログ等で積極的に情報発信する。 ・学校説明会の開催時期と実施方法・内容を見直す。 ・中学生の本校志願倍率を1.1倍以上に定着させる[1.21]。</p>	
<p>5 力と熱意を備えた教員の育成と学校組織づくりによる「働き方改革」の推進</p>	<p>(1) カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質養成 ア カウンセリングマインドによる生徒指導、相談の資質の養成</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 健康管理の観点から「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減</p>	<p>(1) 教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談をできる資質を養成する。 ア 担任団の生徒に係る即時情報共有や円滑な相互連携ができる座席配置等を検討実施する。 ・学年縦断の連携に資する行事を検討実施する。 ・校内外の教職員研修を通じて、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減をめざす。 ア 健康管理の観点から、分掌業務、会議時間、部活指導時間等を見直しなどで「働き方改革」を追求し、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・定時退庁日や学校閉庁日の徹底、部活動指針の遵守徹底により、教員の超過勤務を削減する。</p>	<p>(1) ア・担任団の連携強化策の検討実施。 ・学年相互連携強化策を将来構想委員会で検討の上実施する。 ・生徒の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率を80%以上にする[78%]。 ・教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の肯定率85%以上にする。[83%]</p> <p>(2) ア・教職員1人当たりの平日月間超過勤務時間数をR5年度比で5%減らす[R5年度27.5時間/4~12月平均]。</p>	